

カンキツそうか病情報第1号

令和3年3月19日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**近年、そうか病の越冬病原菌量が多くなっています。
発芽期における防除を徹底しましょう！**

1 そうか病の発生状況

3月上旬に行った巡回調査(22ほ場)の結果、ウンシュウミカンにおけるそうか病の発病葉率が2.41%(平年0.81%、前年2.00%)と過去10年間で最も高い状況です。また、発生ほ場率は45.5%(平年22.1%、前年63.6%)で、近年、増加傾向にあり、過去10年で2番目に高い状況でした(図1)。本病は、旧葉や枝の病斑内で越冬することが知られているので、今春の本病原菌の越冬量は多いと予想されます。

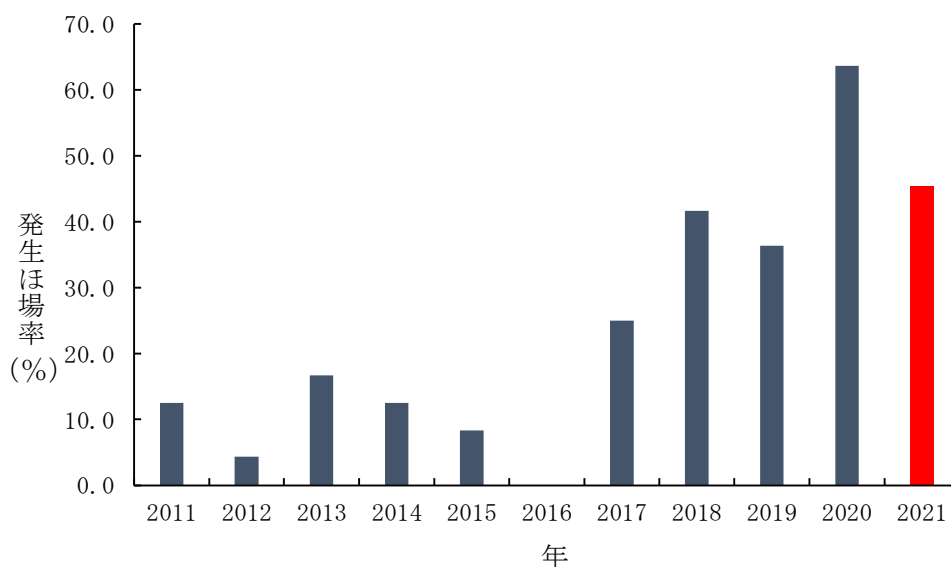


図1 カンキツそうか病における発生ほ場率の推移(3月上旬調査)

2 そうか病の防除対策

- (1) 葉や枝の病斑で越冬した病原菌は、降雨等により水分を得ると、胞子を形成して、それが発芽直後の新葉に感染していきます。特に、4~5月に雨が多いと、病原菌の活動が活発になり、多発する傾向にあります。病斑が多く形成された葉(図2)が第一次伝染源となるので、見つけ次第枝ごと除去しましょう。栄養生長が盛んな若い樹は感染しやすいので、重点的に観察しましょう。



図2 病斑が形成された葉

- (2) 表を参考に防除を実施しましょう。若い葉は本病に感染しやすいので、発芽期における防除を徹底しましょう。新葉以外に幼果も感染しやすいので、落花期にも防除を実施しましょう。
- (3) 窒素肥料が多いと栄養生長が盛んになり、発生が多くなるので、適正な肥培管理に努めましょう。

表 かんきつにおけるそうか病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	成分	FRACコード
キノドー顆粒水和剤	収穫30日前まで	3回以内 (みかんは5回以内)	有機銅	M1
デランフロアブル	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン	M9
ストロビードライフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	クレソキシムメチル	11
ナリアWDG	収穫14日前まで	3回以内	ピラクロストロビン ボスカリド	11 7
ナティーボフロアブル	収穫前日まで	3回以内	テブコナゾール トリフロキシストロビン	3 11

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_frac.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。